

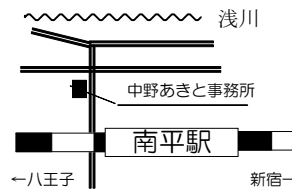


日本共産党市議会議員
中野あきと

みどりと清流



中野あきと事務所ニュース 発行責任者 小山敏正
〒191-0041 日野市南平6-25-1 (南平ビル1階)
(電話・FAX 042-599-3350)



生活相談など
お気軽に
お立ち寄り下さい
中野あきと事務所

<https://midoritoseiryu.skr.jp>



今年もよろしくお願いします
中野あきと事務所

市長選勝利で新しい政治を 今年もよろしくお願いします

市議会議員 中野あきと

28年間の
自公市政に終止符を

事務所ニュース「みどりと清流」をご覧いただいている皆さん。政局を大きく転換した昨年の総選挙結果を受け、政治を前に進める新しい年を迎えました。今年もよろしくお願いたします。

今年には市長選の年です。自民、公明を中心とした28年間に及ぶ馬場・大坪市政は、河内久男元副市長による補助金詐欺をはじめとした数々の不正・腐敗と表裏一体だったと言えます。

この市政に終止符を打ち、何より清潔・公正で、人や環境に優しく、地域産業を支え応援する、そんな潤いと活力のある新しい市政をつくっていききたいと決意しています。

市政で転換が求められる
3つの重要課題

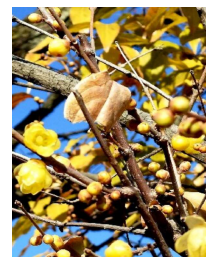
日野市政には、転換しなければならぬ3つの大問題があります。

一つは、蔓延していた違法・不正・利権体質からの転換です。長年にわたる不正・腐敗の構造は、自治とは対極にある権力の集中、市民不在、情報隠しと表裏一体でつくられてきました。

市民参加と情報公開を柱とした自治基本条例―「自治体の憲法」を制定して自治のまちを取り戻していくことがどうしても必要です。

二つに、コストカット型市政運営からの転換です。馬場市政から大坪市政に至るまで「財政非常事態宣言」を何と3回も発出し、水戸黄門の印籠のように「財政難」「行革・コストカット」を推し進めてきました。その結果、市民の暮らしを支える予算や事業は縮小され、職員の削減・非正規化が進められました。この転換が必要です。

三つに、何と言っても日野の「推し」である豊かな自然環境や住環境を大切にす環境優先のまちづくりへの転換



延命寺のロウバイ
(川辺堀之内)

です。

巨大データセンター建設問題は、市の環境に対するスタンスが鋭く問われている問題です。市民とともにつくり上げた日野の「環境・まちづくりのルール」を守り、さらにアップグレードし、環境優先のまちへの転換・発展をめざしたいと思っています。

これまでの立場を乗り越えた新たな共同で
市民主役の市長選を

いま、地域も社会も、そして政治も、新たな変化・発展が求められています。市長選も、これまでの政治的立場を尊重しながら乗り越え共同する、何より主権者である市民一人ひとりの意思が大事にされ、多様な要求や運動が生かされる、そんな新しい市長選にできたらと思っています。

候補者も、選挙のあり方も、市民の声や願いが生かされる「市民が主役」の市長選に。そして今度こそ、希望の市政をともにつくっていききたいと思えます。

よろしくお願いたします。

【ご質問に答えて】

データセンターってなに？……

三井不動産が日野台の日野自動車工場跡地に計画しているデータセンターは、昭島市で計画されているものに次ぐ全国第2の巨大なものと想定され、電力使用量、CO2排出量、排熱量も、日野市全体のそれを遥かに超えることが懸念されています。

データセンターについて

日本共産党市議団はこう考えます

データセンターは、デジタル時代に必要なインフラとも言われていますが、膨大なエネルギー消費やCO2排出が問題になり、ドイツ、アイルランド、シンガポールや台湾など国際的にも規制の動きが強まっています。

日本共産党市議団は国内外の動きを捉え、以下4点を提案しています。

1. 自治体の気候危機対策への遵守・適合

地方自治のまちづくりのルールや環境・気候危機対策を遵守し、整合するものとする

2. 再生可能エネルギー100%使用する

使用する電力は、再生可能エネルギー電力とし、発電時にCO2を出さないようにすること

3. 徹底的な省エネルギーを迫及する

データセンターの省エネを徹底し消費電力や発熱量を減らすこと

4. 建設はできるだけ寒冷な地域で

空冷などにより発生する膨大なエネルギーを節約するため、立地はできるだけ寒冷な地域にすること



報告と訴えを行う
清水とし子都議

▲多摩平イオンモール前

日野市

デマンド型交通の実証実験を開始

市内で、デマンド交通の実証実験が始まります。

期間は令和7年1月15日から令和9年1月14日までの2年間。運行地域は日野駅から甲州街道駅周辺の地域。乗降ポイントは55ヶ所設置され、運賃は大人300円、小学生・障害者・介護者200円などで完全予約制(直前予約可)です。

日本共産党市議団は、ミニバス、ワゴンタクシーとともに、新たなデマンド交通の導入により、交通空白地域(面積で市域の26%)を解消するよう提案してきました。実証実験を踏まえつつも丘陵地域など、一刻も早い市内交通空白地域への全面的導入を求めています。

福祉人材奨学金返還支援事業が始まる

日野市内に住みながら、市内の福祉事業所に就職する方を応援する事業として、奨学金返還支援事業が1月14日から始まります(通年受付)。

奨学金返還の一部を助成する事業で、助成額は年額最大5万円で助成期間は最大5年間。対象となる奨学金は、日本学生支援機構や地方公共団体が貸与しているもの。対象となる福祉事業所は、高齢者、障害者、児童等の法律の規定等に基づき設置されている事業所・施設となっています。

JR日野駅ホームで転落事故

ホームドア設置など安全対策が急務

駅ホームの幅員が狭く、転落などの懸念が上がっていたJR日野駅で昨年12月7日、転落事故が発生。転落された方が重傷を負いました。

日本共産党市議団は日野市に対し、駅ホームの安全対策として緊急に人員を配置するとともに、1日も早くホームドアを設置するようJR東日本へ働きかけるよう申し入れしました。

なお今後、党市議団としてもJR東日本や京王電鉄に対して、同趣旨の申し入れを行う予定です。

息災を願って

高幡不動尊初詣で



「南平7丁目セブンイレブン前」の北野街道に横断歩道と信号機を設置してほしい」という地域のみなさんから寄せられていた要望は、清水とし子都議を通じて警視庁に申し入れていました。

昨年末、警視庁からの回答があり、①隣接する横断歩道に近すぎる、②セブンイレブンに入りにする車のための歩道の切り下げが大きすぎ信号の設置場所がない、とのことでした。回は見送りとなりました。

「南平7丁目セブンイレブン前」の北野街道に横断歩道と信号機を設置してほしい」という地域のみなさんから寄せられていた要望は、清水とし子都議を通じて警視庁に申し入れていました。

平山4丁目で建替え中だった「都営平山アパート」が完成し、昨年末から入居が始まっています。旧7号棟と8号棟を建て替えていたもので、当初の完成予定より2年半ほど遅れました。建物は10階建てで170戸です。

【無料法律相談日】2025年2月
(お申込み) ☎042-582-1042
わたなべ三枝・清水とし子事務所

- 6日(木) 午後6時～8時
岡田じゅん子事務所
- 13日(木) 午後1時～3時
市役所6階共産党控室

都営平山アパート 高層棟の入居開始



日本共産党発行
しんぶん赤旗
日刊●月3497円
日曜版●月990円

政治を変える年に

こんにちは
都議会議員
清水とし子です



市民の暮らしを支えることよりも、世界最大級の噴水や軍事費などに多額の予算が使われ、不正や裏金にまみれた政治が横行する。こんな政治をかえるチャンスが選挙です。

昨年の総選挙では裏金議員が落選、自公が過半数を割ったことで、数の力で強行する政治はできなくなりました。

都知事選挙では「学校給食無償化を都内すべての自治体で」という都民の声で、多摩地域への追加支援が実現、今年1月、都内すべての自治体が無償になりました。

私は都議会で、日野の保健所の復活、シルバーパス、不登校問題、新井交差点の汚水噴出問題、三沢の斜面地開発、PFAS対策、路線バス・ミニバスの減便・廃止問題、データセンター問題などを取り上げてきました。いつも、日野のみなさんの声・運動と連携して質問してきました。

この「市民と野党の共同の議席」を必ず守り抜かなければならないと、今年あらためて決意しています。

市長選、都議選、参議院選、全力で頑張ります。どうぞ、みなさんのお力をお貸しください。

短信

若い記者の憤りと疑問が、政局を動かす大スクープを呼んだ。そんな逸話をジャーナリストの目で見ると、アルに語った人がいた▼出版した著書が日本ジャーナリスト会議のJCCJ賞を受賞し、贈賞式に出席した後藤秀典さんは、赤旗記者のS君に出会う。「しんぶん赤旗」は24年度のJCCJ大賞を受賞。S君は関係者の1人としてその席に居た▼彼は元トラックの運転手。ハンドルを握りラジオなどを聞くうち、「世の中おかしい」と感じジャーナリストの道を志す▼しかし高卒で新聞社やテレビ局に入社できる道は無く、唯一可能性があったのが「しんぶん赤旗」だった。党員で資質さえあれば学歴も経歴も問われない▼赤旗記者になったS君は自民党議員のパーティーに出向く。だが数万円も払ったというのに飲み物すら出ない。参加者は政治家の説教を聞くだけで帰された▼「一般の記者だったらそれが普通と思ひ、疑問も持たなかったらう。好奇心とそれが問題だと分かったら調べ上げるのがジャーナリズムの基本」と後藤さんは語る▼いったい参加者の券代はどこに行ったのか。S君は憤り気の遠くなるような調査が、若い赤旗記者たちによって始められた▼特集番組ばかりの年末のテレビに飽きて、ネットで視聴した一年を回顧する座談会での大スクープにまつわるエピソード。「しんぶん赤旗」ならではの役割を改めて知った年の瀬だった。(K)